

## コヴァラムをモデル自治組織とするための SHG の活躍

エンジニアリング、コミュニティー管理、環境改革といった内容を含むリーダーシップ研修を受けた住民たちが互いの結びつきを強めています。チェンナイから近いコヴァラムの自治組織では、彼らの組織を模範的な自治組織にしようという動きが SHG メンバーの中から出てきています。

カマチさんは、州政府によって組織された 85 の SHG (Self Help Groups) による自治組織連合(Panchayat Level Federation :PLF)の代表で、コヴァラムの自治組織女性メンバー1,300



コヴァラムの SHG メンバーたち

人の代表です。彼女は、学校中退、二児の母でありながら、SHG メンバーがコヴァラムビーチにあるホテルで行われる宴会で臨時の仕事を得られるよう、ホテルのマネージャーと交渉をしています。

カマチさんは、駒澤大学仏教経済研究所が JICA の支援を受けて実施した、3ヶ月間のリーダーシップ研修プログラムの 50 人の研修生のうちの 1 人です。

コヴァラム村は、タミル・ナドゥ州チェンナイ近くの、東海岸道路沿いに位置しています。その美しい景色や素朴なビーチ、ボートクラブに加え、チェンナイからのアクセスの良さで観光客に人気があります。それらの好条件を生かし、コヴァラムの観光産業を活性化しようという試みが何年も行われてきましたが、あまり効果は上がりません。

6,000 人が住むコヴァラムは、カーストと宗教によって 9 地域に分かれています。津波被害救済のためにコヴァラムにおいて様々な団体が支援を行ったことが、この地域の住民が外部からの援助を期待する傾向を生み出してしまいました。

「コヴァラムの発展を妨げている 1 つの理由は、カーストと宗教によって住民が分断されていることです。このため、住民は自分たちの村を発展させるために協力し、共に働くということをしていないのです。例えば、住民は、深刻な水不足、不衛生、トイレがないといった問題を解決したいと思っていますが、そのためにカーストや宗教を超えて協力ができません。」と、コヴァラムの住民と一緒に過去 5 年間働いてきた、コミュニティー開発専門家のデイブ・ボックマンさんは話します。

“自立とリーダーシップ研修”プログラムは、これらの問題に取り組み、解決することを目的としています。①住民参加促進、②若者・女性のリーダー育成、③技術による公衆衛生の改善、これらが事業のカギとなります。

### リーダーになる

トレーニングによる講義や演習（訪問）により、参加者の女性や若者には、コミュニティーをより良くし、コヴァラムの経済水準を引き上げるためにはカーストや宗教の壁を越えて手を取り合って協力する、という意識が芽生えました。女性リーダーたちの成長や柔軟性、彼女たちの持つエネルギーは人を元気付けます。いつか、彼女たちが村をひとつにまとめる

日がやって来るでしょう。このトレーニングは、マドゥライの Dhan 財団によって行われました。

コヴァラム自治組織の地区メンバーであるサティヤヴァティさんもまた、3ヶ月の研修に参加し、演習でケララ州の自治組織を訪ねました。トレーニングでは、自治組織についての理解が深まっただけでなく、様々なスキームによる保障やその規定についての知識を得ました。今後は自信を持ってスキームの申請を行うことができるでしょう。

「当初は家から出ることが許されませんでした。」カジャ SHG メンバーのハセーナさんは語ります。「でも、他の女性が活動しているのを知り、実際に研修に参加したことで、今では SHG の活動に積極的に関わり、マイクロクレジットで得た資金で自分のビジネスを行うようになりました。」

## モデル自治組織

SHG メンバーたちは、Kovalam Rotary Community Corps (KRCC)を通じ、互いに協力しあって村を清掃するようになりました。KRCCは、コミュニティが村の発展のためのプロジェクトを実施することを目的に、Rotary Club of Chennai(RCC)によって設立されたプラットフォームです。研修を受けたリーダーや SHG メンバーは、コヴァラムをモデル自治組織とするために、発展プロジェクトの実施を KRCC に働きかけています。



コヴァラムの清掃に参加する KRCC メンバー

現在 KRCC は、コヴァラムの公共スペースやマーケットをより良くするための“クリーン・コヴァラム・キャンペーン”に励んでいます。RCC は、コヴァラム村を清潔で観光客になじむ場所にするために、自治組織への3年間の協力を約束しました。

ロータリークラブのヴェルー・ムトゥーさんは、「RCC が政治団体としてではなく、コミュニティの問題が議論されるプラットフォームとしての役割を果たし、そこで出されたアイデアが実際にコミュニティメンバーの手によって実行されるのを目にするのは、とても興味深いです。彼らには、他にもプロジェクトを実施することができる、という自信を少しずつ身に付けてほしいと思います。」と語った。

リーダー育成を行う一方で、プロジェクトはコヴァラムの女性とダリット（不可触民）の問題、つまり、水と衛生という重要な問題にも取り組んでいます。ダリットの集落の90パーセントはトイレを利用する環境にありませんでした。ほとんどの住民が野外で用を足しており、これは公衆衛生にとって大きな脅威となっていました。

ガンディーは、公衆衛生は政治的な独立よりも重要であると認識しており、以下のように述べたことが知られています。「様々な病気は、私たちのトイレの状態やどこでも排泄をする習慣からきています。したがって、私は排泄のための清潔な場所と設備は絶対に必要であると考えています。私自身、そういった清潔さを心がけていますし、皆もそうすべきであると思っています。」

3年前、コヴァラム村のナドゥーコロニーでは、住民は野外で排泄をしていましたが、現在では状況は一変しました。ナドゥーコロニーは、駒澤大学仏教経済研究所と JICA による45基のエコサントイレ建設により、衛生的で環境に優しいコロニーになりました。プロジ

エクトは全体的な衛生の向上だけではなく、革新的かつ低コストで環境に優しい解決策を提示しています。



エコサントイレ



エコサントイレ外観

ナドゥーコロニーに住むバヴァニさんは、「エコサントイレの建設前は、少なくとも15分かけて茂みに用を足しに行っていましたが、今は時間が短縮されただけでなく、安全で便利になりました。もうへびやサソリ、また、茂みに隠れているいやらしい男性を恐れなくていいのです。」と話します。

コヴァラムはベンガル湾岸に位置しており、満潮時やモンスーン期の地下水位は非常に高くなるため、实际的に普通の水洗トイレを使うことは不可能です。この問題を解決するため、水を用いない乾燥トイレ、エコサントイレが導入されたのです。建設費用を抑えるため、日本のプロジェクトチームは、普通のコンクリートではなく竹筋で補強されたコンクリートを建設に使用することに成功しました。

トイレ—特に水を使わないトイレ—を利用するという考えは、最初はナドゥーコロニーの住民に受け入れられず、彼らを納得させるのは困難でした。しかし、トイレを使用した住民はだんだんこのトイレを受け入れていきました。

ナドゥーコロニー住民のベンジッタさんは話します。「最初はよく理解できませんでした。が、エコサントイレを建設した隣人に相談し、自分でもトイレの設備を調べた後で利用しました。今では使ってみて良かったと思っています。」

### “エコサン”の仕組み

“エコサン”トイレには地面の上に二つの半円形の容器が設置されています。特別に据え付けられた便器からは、尿が草が敷き詰められた容器へ流れ落ちるように設計されています。便にはカップ一杯の灰がかけられ、片方の半円の容器に溜まるようになっています。1つ目の容器は6ヶ月、もしくは4分の3まで溜まるまで使用され、その後は蓋がされます。2つ目の容器が使用されている間、最初の容器では便が分解されます。分解の過程で便の容量は少なくなり、危険な病原菌は消滅します。分解された便は土壌回復剤として園芸に使われたり、燃やされたりします。

尿には病原菌が含まれておらず、リン酸塩や窒素が豊富に含まれているため、高価な市販の肥料の代わりに全ての作物に使用することができます。農業地域では田畑で利用され、非農業地域では花壇やバナナの木の下に撒かれます。



便を覆うための灰

「水洗トイレはより多くの水が必要ですが、私たちには十分な水がありません。でも、このエコサントイレは灰をかけて覆うだけでいいのです。簡単で衛生的です。」とバヴァニさんは言います。

コヴァラム自治組織のクンドラカドゥ村は、公衆衛生の危機に直面しています。88世帯のうち、17世帯にのみトイレが設置されています。家屋は密集しており、トイレを建設するための空きスペースがありません。そこで、村の若者は協力して共同エコサントイレを村に建設し、堆肥をビーチリゾートへ販売する計画を考え始めています。もしこのビジネスプランが上手くいけば、エコサントイレ利用者がそこで用を足すことによって、お金を生み出すこととなります。

コヴァラム自治組織の代表、ジャナキラマンさんは乾燥トイレの導入を奨励しています。また、自治組織レベルでのエコサントイレ建設に関心を持っており、トイレ建設のためのローンについて中央銀行に相談をしています。

Vandalur—OMR 通り近くの静かなプンゲリ村は、ナドゥーコロニー方式を検討しています。プンゲリ村でトイレのある世帯は多くありません。政府によって建設された、いくつかの野外トイレは放棄されており、使用されていません。日本の友人の支援を受けていくつかの世帯がエコサントイレを建設しました。それを見た村人も同じような乾燥トイレの建設を計画し始めています。

今や、若いリーダーや女性たちはひとつにまとまり、大きな自信を持って明るい未来を描いています。あと少しの指導と支援によって、コヴァラムはモデル自治組織となるでしょう。